



商品名：アロンブルコートP-410

トータルメンテナンスに貢献する

東亜合成株式会社 建材・土木グループ  
 〒105-8419 東京都港区西新橋 1-14-1  
 TEL.03(3597)7341 FAX.03(3597)7297

種別	2液反応硬化形弱溶剤系エポキシ樹脂下塗材
----	----------------------

## 1. 使用目的

アロンブルコートP-410は、鋼板などに対する防錆機能および付着性に優れたエポキシ樹脂系2液反応形の弱溶剤防錆下塗材です。

アロンブルコートZ-X、Z-Y工法の下塗材として、アロンブルコートA-450Xを塗布する場合に優れた密着性を発揮します。

なお、本プライマーへの溶剤系塗料の直接塗布は避けて下さい。

## 2. 特長

### (1)防錆効果に優れています

- ①防錆顔料により、下地鋼板を不動態化して、錆の発生を防ぎます。(化学的防錆効果)
- ②水蒸気および酸素に対するガスバリアー性の優れた緻密な塗膜を形成します。(物理的防錆効果)

### (2)付着性に優れています。

鋼板、アルミ、ステンレス、カラー鉄板などの多くの金属下地に対して良く付着します。

### (3)環境に配慮したプライマーです。

- ①従来の強溶剤タイプのプライマーに比べ、以下の特長を有した環境に優しい弱溶剤タイプ\*1です。
  - ・臭気がマイルドで毒性が低いため、施工者への悪影響や施工時における建物の使用者や近隣住民への刺激が減少します。
  - ・トルエンキシレンなどの強溶剤に比べ、大気への悪影響を軽減します。
- ②従来の溶剤形下塗材に比べ、VOC(揮発性有機溶剤)の排出量が低下します。
- ③鉛系防錆顔料を使用していません。

\*1 弱溶剤は、ミネラルスピリットなどを使用した溶解力の低い溶剤からなり、従来のトルエン・キシレンを主成分とした溶解力の強い強溶剤に比べ、刺激臭が少なく、毒性が低いことが特長です。

さらに、ミネラルスピリットなどの弱溶剤は、強溶剤に比べ、大気汚染の一因である光化学オキシダント(大気汚染物質中の酸化性物質の総称で、オゾン、二酸化窒素などがある。特に大気中の光化学反応で生成されるオキシダント成分を光化学オキシダントと言う)の発生量が少なく、大気汚染への影響を軽減します。

### (4)弱溶剤のため、既存塗膜(活膜)を侵しません。

弱溶剤系のため、既存塗膜を侵すことなく、優れた付着性・耐久性を発揮します。

### 3. 性状

	主 剤	硬化剤	専用シンナー		
			S(夏用)	A(一般用)	W(冬用)
外 観	赤錆色防錆顔料分散樹脂溶液	黄褐色透明液体	無色透明液体		
成 分	エポキシ ミネラルスピリット	変性ポリアミドアミン ミネラルスピリット	ミネラルスピリット		
固形分 (%)	約 71	約 25	—		
粘度 (mPa・s, 23°C)	約 1,500	約 13	—		
液比重	—	—	約 0.83		
消防法危険物	第 4 類第 2 石油類	第 4 類第 2 石油類	第 4 類第 2 石油類	第 4 類第 1 石油類	

※出荷時期：シンナーS…6～9月末，シンナーA…4～5月末，10～11月末，シンナーW…12～3月末

### 4. 荷 姿

材料名		18kg セット
アロンブルコート P-410 (赤錆色，日塗工 B07-40P 近似)	主 剤	16kg/缶
	硬化剤	2kg/缶
	専用シンナーS, A, W	16L/缶、4L/缶

### 5. 施工方法

#### 5.1 適用可能下地

適用プライマー		アロンブルコート P-410	施工上の注意事項
下地の種類			
鋼板		◎	
銅板		○	
ステンレス		◎	
アルミ		○	
電気亜鉛めっき鋼板		◎	ボンデ鋼板
溶融めっき鋼板		◎	ドブ付け亜鉛板
溶融亜鉛めっき鋼板		○	シルバージンク・シルバーアロイ
溶融合金めっき鋼板		◎	ガルバニウム鋼板
耐候性鋼板		○	コールテン鋼(無塗装鋼板・酸化皮膜)
被覆鋼板	塩ビ・フッ素樹脂	×	
	樹脂	◎*	カラー鉄板，カラートタン 新品の場合は付着性の事前確認が必要
シルバー 塗装	水系・溶剤	○*	脆弱部をできるだけ除去し，セメント系材料の直接塗布を避ける 溶剤蒸発のため，塗布後乾燥時間を1日以上設けること
	アスファルト (アルマネーション)	○*	
オリエンタ ルメタル	アスファルト	○*	
	フッ素樹脂	×	
オーシマメタル(フッ素樹脂)		×	
硬質塩ビ		×	
FRP		×	

※◎:メインプライマー ○:使用可能 ×:使用不可 ※\*:右記の施工上の注意事項参照

※既存活膜のシルバー塗料やアスファルト塗装に対しては，アロンブルコート P-300 が最適です。

## 5.2 配合

		配合	
		重量 (kg/缶)	容量 (L/缶)
主 剤		16	11.8
硬化剤		2	2.4
専用シンナーS, A, W	刷毛・ローラー刷毛	0～1.3	0～1.5
	吹付け	1.3～2.1	1.5～2.5

## 5.3 標準使用量

0.1kg/m<sup>2</sup> (0.1～0.22kg/m<sup>2</sup>, 使用量には希釈シンナーは含まれません)

## 5.4 可使時間・硬化時間

		適用シンナー	可使時間 (時間)	乾燥時間 (時間)	施工間隔 (時間)
冬期	～5℃	W	約 6～7	約 15	16～240
春・秋期	5～35℃	A	約 5～6	約 6	
夏期	35℃～	S	約 3～4	約 3	

## 5.5 適用上塗材

アロンブルコート A-450X

## 5.6 標準施工方法

- ①第3種ケレン後、施工前に下地を十分に清掃して下さい。
- ②使用直前に材料を良く攪拌し、吹付けまたはローラー刷毛などにより塗布して下さい。

## 6. 使用上の注意事項

### 6.1 本剤特有の注意事項

- ①主剤と硬化剤の混合後はできるだけ早く使用して下さい。
- ②主剤と硬化剤には水分、異物など入らないよう気をつけて下さい。
- ③硬化剤は直射日光を避け、冷暗所に保管して下さい。また、開缶後は密栓して下さい。
- ④主剤と硬化剤を小分けして使用する場合は、所定の調合割合で計量・混合して下さい。
- ⑤直接皮膚に付いたり、目に入らないよう取扱いの際には、ゴム手袋、保護メガネ等を使用して下さい。
- ⑥アロンブルコート P-410 を使用した器具は、専用シンナーまたは塗料用シンナーで洗浄して下さい。  
使用後放置すると硬化し、再利用できなくなります。
- ⑦換気の悪い屋内、地下等では使用しないで下さい。
- ⑧火気はもちろんのこと、溶接、モーター等の火花による火災にも十分注意して下さい。
- ⑨降雨・結露の予想されるときや、高湿度、低気温(5℃以下)の場合は施工をさけて下さい。

## 6.2 安全上の注意事項

本材を使用するに当たり、以下の点に十分留意して下さい。

- 引火性の液体である
- 有機溶剤中毒の恐れがある
- 健康に有害な物質を含有している
- 皮膚に付着するとかぶれを起こす恐れがある

安全に取り扱うために、以下の点を守って取り扱って下さい。

### 6.2.1 取り扱い方法

- ①火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ②取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ③塗装中、乾燥中とも換気を良くし、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- ④取扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを着用し、さらに頭巾、保護メガネ、長袖の作業衣、えり巻タオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ⑤取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行って下さい。
- ⑥作業衣等に付着した場合には、その汚れをよく落として下さい。

### 6.2.2 救急処置

- ①皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診察を受けて下さい。
- ②目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ③蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ④誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ⑤火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いて下さい。

### 6.2.3 貯蔵保管方法

- ①よくフタをし、一定の場所を定めて貯蔵して下さい。
- ②子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ③40℃以下の一定の場所を定めて貯蔵して下さい。

### 6.2.4 廃棄方法

- ①容器からこぼれた場合は、布で拭き取り使用済みの布は産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。
- ②下塗材の付着したウエスや下塗材のカス、スプレーダスト等は、産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。
- ③中身を使いきってから廃棄して下さい。
- ④本材を廃棄する場合は、産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。

### 6.2.5 誤使用

- ①本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ②指定された以外の材料と混合しないで下さい。

※安全に施工を行うために、必ず「安全施工マニュアル」を参照して施工を行って下さい。

※さらに詳細な内容が必要な場合には、製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

以上